

今年度のひろばも、残すところあと3回になってしまいました。

3月には保護者の方の転勤などで福島を離れる方が毎年いらっしゃいます。「みんなでみんなの子の成長を見守りたかったね～」という会話もあちらこちらで聞こえてきます。そして、大きい子どもたちは、それぞれ幼稚園に入園します。大人は思い出に浸り別れを悲しむのですが、子どもは未来のみ見て、わくわく胸を弾ませています。子どもたちを見習って！ 未来に期待して、それぞれの春、おめでとう！

ととけっこうのおはなし会



今年度最終回のととけっこうのおはなし会が、開催されました。いつものように、にわとりさんがみんなのところに始まりの合図に行きました。一人一人に挨拶すると、みんなウフフと笑って優しく触って挨拶してくれました。

プログラム1番は、大型絵本「かばくん」です。いつもより大きなかばくんの登場によって引き込まれていく子どもたち。とても良い表情ですね。次は、わらべうた「いとまき」です。大きく手を回しながら、何度か繰り返して遊びました。最前列に3～4歳の大きい子どもたちが座っており、その姿や発言が醸し出す

雰囲気に入れ、相互作用でおはなし会が作られていきました。最後は、絵本「はなをくんくん」を見ました。モノクロの絵で、雪の世界から春の訪れを感じる展開でした。

そして、最後は、好きな絵本を手にとって、読んでもらう時間です。Kちゃん(1歳6か月)も絵本を手に取り、ページを開きながら絵に夢中です。お母さんが隣で言葉を添えてあげています。この絵本で、もう何冊目でしょうか。その間、お兄ちゃんには保育者が読んであげています。





Ｙちゃん（３歳４か月）とＴくん（１０か月）のお母さんは、いつも子どもの意思を大切にしています。この時は、Ｙちゃんの見たい絵本にたっぷり時間をとってあげていました。自分の話をしっかり聞いてもらえて、それに応えてもらえると、Ｙちゃんは“自分を大切にしている”と感じ、とても良い表情を見せてくれます。

この時の“幸せ感”が、Ｙちゃんの将来を支えてくれることでしょう。

絵本の力



絵本には、大きな力があるってご存知でしたか？

かわいいだけが絵本ではありません。

子どもは、大好きな人に絵本を読んでもらうことで、自分は愛されていると実感します。大好きな人に触れながら大好きな人の声で読んでもらうのが一番です。愛されていると実感できた子どもは、やる気に満ちてきます。つまり意欲が育つのです。

それから、絵本のストーリーの中に入って疑似体験をします。登場人物の気持ちに自分を重ねてみたり、体験を積み重ねることで、「こんな人になりたい！」と憧れを抱いたり、思考力や感性も育っていきます。

そして、絵本の絵は、子どもが初めて出会う美術です。子どもは、絵を目で読み、耳からストーリーを聞き、絵本の世界を楽しみます。できるだけ良い絵本を選んであげたいものです。

字が読める年齢になっても、絵本は自分で読むものではなく、読んでもらうものです。１０歳までは、絵本を読んであげましょう。学校の成績もぐんぐん上昇間違いなしです！

この車、一人しか乗れない

昨年、１年生の学生たちが作ってくれた車を久しぶりに出してみました。「Ｔくん（４歳）乗る～」「Ｙちゃん（３歳）が乗る～」それぞれ自己主張。私「そうか、Ｔくん乗りたいのね」「Ｙちゃんも乗りたいんだね」それぞれに共感して、「困ったね～」「二人では乗れないの？」やってみるが窮屈で不満のようです。私「あっ、そうだ！ 段ボール箱があった。もう１台、車を作るって、どう？」と二人に問いかけると、二人とも青い車をさっと降りて「作る！」「作る！」と大張り切り。そこへ「この箱、どうかな？」「使えそう？」と段ボール箱を出すと「うん、いいよ！」との事。その日から、今日で３回目のひろばです。入れ代わり立ち代わり、みんながシール貼りを楽しみました。そして、青い車の後ろにこの２つの車をつけることになりました。「みんなで何人乗れるの？」すると運転席に座っているＴくんが後ろの段ボール箱を指さしながら、「１人、２人・・・６人！」私「じゃあ、運転手のＴくんを混ぜると７人だね」「７人乗りの車になったね」それぞれの箱に何人入れるか考えながら、数も数えられるんだね。



まずは庭で遊んでから



「おはよう」「おはよう」目と目を合わせてご挨拶する小さな子どもたち。まずは、庭をぐるっと歩いて、デコボコ砂場を歩いて、そしてやっぱり砂場でしゃがみ込み、シャベルでペタペタが始まります。どんなに寒い日でも、満足いくまで外で遊んでから、保育室に入ってニコッとします。そして、温かい味噌汁を飲んで、今度は室内で遊び始めます。

寒い中、子どもの自主性を大切にしようと、かばんも背負ったまま子どもに寄り添うお母さんたちです。

ご参加の保護者の方の声

親と子のひろばにご参加いただいている保護者の方々から、メッセージを寄せていただきました。

「親と子の広場」が、私と息子に与えてくれたものは、安心感だ。子どもは安心して遊んでいる時、非常に生きいきとし、喜びを全身から発散して遊びに没頭できる。感情が豊かで、時に自分の心の動きに翻弄されてしまう息子に、私は四苦八苦ししていた。

その息子と私にとって広場は、大袈裟でなく、救いとなっていた。広場では「お互い様」という言葉が行き渡っている。お互い様には、私はあなたを許すという、受容の心が内包されている。受容は安心感へと繋がる。息子に与えたくて、私自身も欲していたものだった。

先生が、学生たちが、保護者の方々が、目をかけ、声をかけ、遊び、自分を受け入れてくれる体験が、息子の心を、どんなに豊かにしてくれた事か。それはもちろん、私自身も受かった恩恵である。今という時が例えどんな状態であろうと、どんな気持ちを抱いていようと、受容する。そこから必ず光が見えてくるという事を、私は広場での経験を通して知った。

先生、学生たち、保護者の方々、そして子どもたち。全ての皆様に、伝えきれぬ程の感謝と祝福を。

皆さま、誠にありがとうございます。

Hの母より



初めて広場に来た頃
2018年10月



味噌玉づくり
2019年7月

初めて遊びにきたのは息子が11ヶ月くらいの時でした。知り合いは、まったくいませんでした。最初は同じくらいの月齢の子もあまりなくて、他のお母さんとも何を話したらいいかととても緊張していました。

1歳を過ぎて、息子は先生や学生さんに遊んでもらって広場を楽しみ始めました。私もだんだん顔見知りのお母さんが増えてきて、楽しめるようになってきました。2歳を過ぎて、同世代のお友達とはあまり関わろうとしないので大丈夫かな〜と心配していました。トイトレはどうやって進めよう、幼稚園はどこにしたらいいだろう、いろんな悩みを先生や他のお母さん、時には学生さんにも聞いてもらいました。

今、息子は毎週お友達と広場の庭で走り回っています。トイトレはなかなか進んでいませんが、なるようになるかと思っています。幼稚園は園庭が広くて楽しそうなところになりました。親と子の広場は、息子だけじゃなく私も楽しみな場所になっていました。私も息子も、いつの間にかたくさん成長していました。

春からは幼稚園に通いますが、きっと楽しく通えるんだろうな、と本人も私も楽しみにしています。側でたくさんの成長が見られて、とても幸せな時間でした。

まだ下の子がいるので、もう少し幸せな時間を楽しもうと思います。

YとMの母より



初めて広場に来た頃
2017年10月



庭で遊ぶのが大好き
2019年



優しいおばあちゃんも一緒に
2020年1月

さくらっこに通うようになって3年目、お兄ちゃんに続いて弟がお世話になっています。

「子どもたちが何でも好きなことができ、先生や学生さん、保護者の方、みんなで子どもたちを見てくれる素敵な場所だよ。」と友人が誘ってくれたことがきっかけでした。すぐにさくらっこは大好きな場所になり、お姉さんがだーい好きな長男は毎日のようにさくらっこに行きたがりました(笑)

子どもと一緒に遊ぶのはもちろん、みそ作りや梅ジュース作りなどわたし自身も様々な体験をさせてもらいました。

また、子どもが学生さんと一緒に思い切り遊んで楽しんでいる姿を見られるのは嬉しく、自分の子どもを客観的に見ることができました。他の支援センターではなかなかないことだと思います。

保護者の方と他愛ない話をしたり、先生方にアドバイスをいただいたり、自分自身のリフレッシュの時間にもなりました。学生さん、先生方、保護者の方々といろいろな立場の方とみんなで子どもたちを見ていくことの大切さを実感しました。

プールにお魚をたくさん浮かべて遊んだこと、ミニカーをたくさん並べたこと、梅の実をたくさん拾ったこと、お外ですいかをたくさん食べたこと…様々な場面を思い出すと涙が溢れてきます。

今年度でさくらっこは卒業し、4月からは転居先で新しい生活が始まります。福島を離れるのは本当に本当に寂しいですが、頑張ります。

みなさん、今までありがとうございました。またお会いできる日を楽しみにしています。

MとYの母より



初めて広場に来た頃
2017年 Mちゃんと



2人を連れて 2018年



Yくんの水遊び
2019年

寄稿してくださった皆様、ありがとうございました。

今後も、随時メッセージを募集しています！ 奥田までお声掛けください。

けなされて育つと、
子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、
子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、
子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、
子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、
引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、
子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、
子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば
子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、
キレる子にはならない

誉めてあげれば、
子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、
子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、
子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、
子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、
子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、
子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、
子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく思いやりをもって育てれば
子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、
子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、
子どもは、この世の中はいいところだと
思えるようになる



スタッフよりご挨拶

保護者の皆様と子どもたちの成長と一緒に喜び、見守ることができたことをとても幸せに思います。子どもたちの笑顔を見ると元気を頂き、子どもたちに会えるのを楽しみに毎回広場に来ていました。ととけっこのおはなし会では、子どもたちが本のページをめくる度に「次はどうなっているのかな？」と興味津々に目を輝かせている光景が、心に残っています。また野外保育では、大型バスに乗って、牛たちに会いに行きましたね。初めて見る牛の体の大きさ、声や匂い等に驚き、おそるおそる近づく子ども、遠くからのぞき込むように見ている子ども等反応は様々でしたが、子どもたちのわくわくした表情は今でも忘れられません。春から入園される皆さんの成長を心から願っています。ありがとうございました。

富田祐香

今年度もたくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。お一人お一人が持っていらっしゃる知恵と力を合わせ、お互い様の気持ちで子育てしていくと、ゆとりが生まれてくることを皆様から教えていただきました。そして、子どもたちからたくさんの“幸せ”をいただきました。行き届かない点も様々あったと思いますが、皆様にお力を貸していただきながら、お陰様でここまで運営してこれました。

学生が参加した際には、お子さんとのかわりを勧めてくださったり、ご家庭での様子を教えてくださいたり、保育室のあちらこちらで保護者の方と学生がお話する様子が見られました。皆様に温かな眼差しで見守っていただく中で、学生たちはのびのびと行動し、豊かな経験から学びを得ることができました。心より感謝申し上げます。学生たちは、春から幼稚園や児童福祉施設等で保育者としての生活が始まります。きっと、子どもの気持ちに寄り添え、保護者の思いを汲める保育者になってくれることでしょう。

春、庭が華やかになる頃、またお会いしましょうね。

文責 奥田美由紀

今後の予定

1月28日(火)

31日(金)

2月4日(火)

2・3月は、春休みです

※4月以降は、水・金曜日開催に変更になる予定です
4月の予定は、3月下旬に短大HPでご確認ください



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

